

令和6年度第2回どっぶり高知旅キャンペーン推進委員会 議事概要

日時：令和6年10月23日（水）15:00～17:00

場所：高知会館 3階「飛鳥」（高知市本町5-6-42）

《配布資料》

委員出欠表

配席図

【議決事項】

資料1-1 令和6年度第四次事業計画（案）

資料1-2 令和7年度第二次事業計画（案）

資料2-1 令和6年度補正収支予算（案）

資料2-2 令和7年度補正収支予算（案）

【協議事項】

資料3 連続テレビ小説「あんぱん」を生かした観光振興の取り組み

資料4-1 どっぶり高知旅キャンペーン 誘致・広報の取り組み

資料4-2 どっぶり高知旅キャンペーン 受入事業の取り組み

資料5 どっぶり高知旅キャンペーン 令和7年度に向けたバージョンアップの方向性（案）

参考資料1 令和6年度第1回どっぶり高知旅キャンペーン推進委員会でごいただいたご意見及び対応

1 開会

進行：高知県観光政策課 西村課長補佐

挨拶：どっぶり高知旅キャンペーン推進委員会 小西会長

2 議決事項

進行：どっぶり高知旅キャンペーン推進委員会 小西会長

(1) 第1号議案 令和6・7年度事業計画（案）及び補正収支予算（案）

資料1-1 令和6年度第四次事業計画（案）

資料1-2 令和7年度第二次事業計画（案）

資料2-1 令和6年度補正収支予算（案）

資料2-2 令和7年度補正収支予算（案）

説明：高知県観光政策課 中村課長

質疑応答（質問・意見なし）

第1号議案について出席委員全員の賛同を以て承認

3 協議事項

(1) 令和6年度の主な取組状況

資料3 連続テレビ小説「あんぱん」を生かした観光振興の取り組み

資料4-1 どっぶり高知旅キャンペーン 誘致・広報の取り組み

資料4-2 どっぶり高知旅キャンペーン 受入事業の取り組み

説明：高知県観光政策課 中村課長

(2) 令和7年度に向けたバージョンアップの方向性

資料5 どっぶり高知旅キャンペーン 令和7年度に向けたバージョンアップの方向性 (案)

説明：高知県観光政策課 中村課長

質疑応答

発言：庵原委員

- ・資料4-2の「コミュニティバスを活用した周遊観光ルートのPR」について、具体的な内容を教えてほしい。

回答：高知県地域観光課 仙頭課長

- ・中山間地域に行っていただくための二次交通アクセスを補完するものとして、コミュニティバスがある。これを使って、例えば三原村などアクセスが難しい場所で、何時に駅を出発し、目的地に到着し、駅に戻ってこられるかといったタイムライン入りのモデルコースをホームページで紹介し、少しでも現地に行きやすくなるような環境整備を行う取り組みである。

発言：上村委員

- ・資料4-2の「宿泊施設における旅ナカ体験コンテンツ等の情報紹介」について、かなり可能性があると感じた。また、現在宿泊施設に配布いただいているPOPもすごく活用できているのではないかと。ゆるく予定を組まれている観光客の方には、このように旅ナカに楽しめるコンテンツをPRすると良いと思うので、力を入れていってほしい。

回答：小西会長

- ・宿泊施設にご協力いただいて設置している体験紹介POPは、これから徐々に効いてくるのではないかと考えている。先日、あるOTA一社の県内体験コンテンツの予約数を調べてみたところ、恐らく9月までの実績で2万人程だった。特に幡多地域での川下りなどが多く、夏場に結構利用されている印象。各宿泊施設で案内をしてもらうことによって、予定に余裕を持った方に予約をしていただけるのではないかと。
- ・地域観光課で現在作っているどっぶり商品もまずはOTAの登録を行ってもらい、またキャッシュレス対応も進めていくことで、徐々に中山間地域の体験コンテンツにも目を向けてもらえるのではないかと。

発言：吉岡委員

- ・資料4-2の「旅行業と連携した取り組み」について、いくつかの旅行商品を旅行業協同組合に登録し、11月初めに高知市全域にチラシが入る予定になっている。広報の一環として、ここにいらっしゃるどっぶり高知旅キャンペーンの関係者にも参加していただきたい。

回答：小西会長

- ・我々も体験することが大事だと思うので、参加について考えていきたい。また、皆様にもお願いしたい。

発言：小笠原委員

- ・9月の議会で承認をいただき、交通関係や宿泊事業者のご協力のもと、フリーきっぷや宿泊事業者と連携した物部川エリアでの観光体験商品づくりを従来の事業などとも連携して取り組みを進めてい

る。

- ・この先は、もっと物部川エリアの魅力を知ってもらうことも含めて、モニターツアーや勉強会などを開催したいと思っているので、ぜひご参加をお願いしたい。

回答：小西会長

- ・もうすぐ観光博覧会が開幕になるので大変だと思うが、地域の方々の巻き込みも非常に大事。我々もサポートさせていただくので一緒に頑張っていきたい。

発言：仙波委員

- ・やなせ作品を高知だけではなく、他の県でもご覧いただくということで、NHK財団と展覧会の準備を進めている。巡回会場はほぼ決定した状態で、東北から九州までの都道府県立施設や市立施設などになる。
- ・資料5の「閑散期・平日の誘客促進」に記載の龍馬パスポートでのやなせキャラグッズプレゼントのイメージを教えて欲しい。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・具体的な内容は検討中だが、県の野菜や防災などのキャラクターを使った非売品のシールなどを作れないか協議をしているところであり、これをきっかけに少しステージアップを頑張っていただけではないか。また、権利的に使いやすいものがあればアドバイスもいただきたい。

発言：松下委員

- ・ごめん・なはり線では、オープンデッキ車にやなせ先生が描いた、21 駅のイメージキャラクターを施したラッピングを行う予定。来年3月末の赤岡のオープニングセレモニーでも活用できるよう話を進めているところ。メディアにも取り上げられやすいと思うので、今後のそれぞれの事業計画に上手く組み込んでもらえればありがたい。
- ・どっぷり高知旅キャンペーンと物部川エリアでの観光博覧会の相乗効果で県内全域へ誘客を図る中、東西間の移動ではJR四国さんとともに、快適な移動の足として当社も十分お手伝いをしたい。

回答：小西会長

- ・土佐くろしお鉄道とJR四国と企画切符について協議をいただいているところ。いかに周遊してもらうかが課題であるので、やなせ先生のキャラクターや映画のロケ地なども含めて東西に足を運んでもらい、そこでどっぷりコンテンツをしっかりと体験してもらおうといったことを目指していきたい。

発言：上村委員

- ・先ほど質問した、前日・当日予約のサイトについて、どのサイトにどのぐらい流入しているか、扱っている言語がどうなのかなどのログ等は取っているのか。

回答：高知県地域観光課 仙頭課長

- ・Google アナリティクス分析などでは、どのサイトに遷移したかということは分かるが、実際にお客さんがOTAで約定したかどうかまでは分からない。なお、QRコードから飛び先のページへどれぐらい遷移したかというところは、PDCAで押さえるようにしている。

発言：上村委員

- ・せっかくどっぷりでたくさん着地型商品ができていますので、今後発展をしていくためにも分析にお金を使ってみてはどうか。
- ・最終的に決済と言語のバリアフリーを実現するサイトができれば良いと思っている。できるできないを別に極端なことを言えば、各着地型商品のランディングサイトから決済のページまで全部県が一括で作って、どこでいくら決済されているか分かるようにするなど。やはり高齢の事業者さんは対応が難しいと思うので、そういったサポートができればと思っている。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・キャンペーンも含めて、ホームページでいかに理解してもらうかが大切なので、専門のアドバイザーにアドバイスをいただけるように予算を少し積みたいと思っている。

発言：上村委員

- ・我々の業界ではDX勉強会を毎年行っているが、Googleで検索をするというのは数年で無くなるのではないかと私は思っている。AIもこれだけ進歩しており、スマートフォンで検索するということから、別の探す方法に変わってくるのではないかと。そういったことも含めて、観光部署にデジタルやITの専門家やアドバイザーを置くのは良いと思うので、そういったところも進めてほしい。

発言：久保委員

- ・アンパンマン列車のライセンスの関係で、ドラマの「あんぱん」とアンパンマンの使い分けを厳しく言われている。営業施策について、前広に県と打ち合わせをさせていただいており、できることをしっかりやっとうと考えているところ。
- ・その一つが先ほども話のあった、来られた方に周遊してもらうための県内の交通事業者と連携した切符づくり。過去の博覧会等でもたくさんの企画切符を作ってきたが、課題はしっかり販売をしていくところ。この点については、今回の予算を見る限り重点を置いていただいているのではと思っている。
- ・前回の推進委員会では、近隣県でのPRが重要ではないかと申し上げさせていただいた。来年の瀬戸内国際芸術祭には観光客が取られるという雰囲気もあるが、世界から何十万人も瀬戸内にお越しになるという捉え方をすると、絶好のPRチャンスとも思っている。今回、岡山駅に広告を出すということだが、非常に効果が高いのではないかと思っている。
- ・資料4-2の「初回パブリックビューイング」は大きなイベントだと思うが、毎年事後にニュースで知ってしまう。ゲストのことなど、どのくらいの規模や範囲で告知が許されているのか教えてほしい。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・まだ予想の段階だが、3月31日が月曜日なのでパブリックビューイングはその日になるのではないかと考えている。開催地は現在調整しているところ。
- ・色々ご意見を聞かせてもらっているが、平日なので昼という選択肢もあると思っている。また、少しステージや出店などもできないかとのアイデアもいただいている。ゲストも呼ぶなど幅広に考えながら、予算と相談しつつ各地域が「あんぱん」で盛り上がるようにやっていきたい。

発言：三浦委員

- ・「らんまん」の際は、西部では効果がいまひとつだったこともあり、「あんぱん」では幡多地域の市町村一体となって、効果を引っ張ってきたいと考えている。
- ・どっぷり商品は、市町村単位では出来てきているが、幡多全体という商品が出来かぬている。現在、市町村の皆さんと色々プランを練っているところであり、また補助金の相談もしていきたい。

回答：小西会長

- ・「あんぱん」の際には、「らんまん」と同じ結果にならないように我々も肝に銘じて取り組んでいるが、地元の皆様のアイデアやご協力をいただけないと進まない部分もあるので是非ご提案もいただきたい。
- ・「あんぱん」をきっかけに全国から物部川流域を中心に高知に注目が集まり、ドラマを観ている層の旅行マインドが高まる。そこで今年作ったどっぶり商品に少しでも触れていただけるよう我々も取り組んでいくことで、どっぷりの3年目、4年目へつながっていくようにしたいと考えている。

発言：富岡委員

- ・私どものどっぶり商品で、ガイドにフューチャーした四国カルストと梶原のまちあるきを企画したところ、非常に人気があり集客の実績もできた。お客様の声やアンケートでも非常に期待感を感じたので、引き続きどっぷりの商品展開を行っていききたい。
- ・先日、名古屋と東京での観光情報説明会に参加したが、「どっぶり」も「あんぱん」も旅行会社の興味が非常に高いと感じた。旅行会社からは高知市内だけではなく、東部・西部にも行きたいという声もあったので、助成にそのような条件があれば造成されやすくなるのではないかと。
- ・遠方の旅行会社からは高知だけではなく、香川から高知に行くなど県を跨ぐ企画を作ろうという話もたくさんあったので、他県とも連携して高知まで足を延ばしてもらえるような展開ができれば良いのではないかと。

回答：小西会長

- ・ガイドにフューチャーした取り組みが少しずつ浸透していることは非常に嬉しい。ガイドの方にしっかり魅力を伝えていくという点は、どっぷりでも目指しているところである。そういった点を今度は県外からの観光客の引き込みにも使えるように磨き上げをしていきたい。
- ・高知県コンベンション協会の助成では、「あんぱん」関連の施設プラス他のエリアといった展開ができればと考えている。連泊の部分では、この10月から取り組みを始める。現場の声を受け止めながら、県内周遊につながるよう制度を改善していきたい。

発言：山崎委員

- ・仁淀ブルー体験博を9月28日から11月23日までで開催している。今年は56プログラムがあり、参加申し込みは昨年比で約110%で、今後も増えると予想される。
- ・今月末に仁淀川エリアの6市町村の観光協会の事務局長が集まり、今年の「らんまん」の経済効果を再度検証したいと考えている。その検証を経て、宿泊施設や食事の提供場所などの連携をさらに強化するなど取り組んでいきたい。
- ・関東仁淀ブルーの会が11月16日に設立総会を開催するというので、先日会長が来られていた。現在募集中である会員とサポーターを軸にして、高知県へのツアー造成といったことも今後考えていきたいとの話も聞いており、そういったことに今後力を入れてどっぷりに貢献していきたい。

回答：小西会長

- ・体験博はかなり定着もされてきた良い取り組みであり、そこからどっぷりの着地型商品に育っていくような形で我々も一緒に取り組んでいきたい。

発言：中村委員

- ・当協会では、「あんぱん」を生かして高知市と物部川エリア3市を周遊するキャンペーンを展開するよう準備を進めているところ。そのための事業費も9月議会で承認をいただき、今月からプロポーザルの募集を始めている。
- ・前回の会では、デジタルスタンプラリーを実施するとお伝えしていたが、ファミリー層がたくさん来

られるだろうということで、子どもも主体的に楽しんでもらえるようにスマホを使ったデジタルではなく、従来型の紙台紙を使ったスタンプラリーを企画している。やなせ先生のキャラクターを台紙等に使うのは難しいため、柴田ケイコ先生にぼうしパンを使ったイラストをお願いしている。また、事業の実施にあたっては、県の補助金も活用させていただきたい。

- ・先ほど久保委員から近隣県でのPRが重要という話があったが、当協会もこの秋から冬にかけて、近隣県での観光イベントに出てPRをしているところ。その中で来年高知が舞台となった連続テレビ小説が始まるということもPRしてきたが、次の舞台が高知ということはあまり知られていなかった。一方で、「らんまん」の舞台が高知だったことはまだ強く印象に残っているようだったので、本日配布されたパンフレットのように牧野先生とやなせ先生を両方載せるなど、こういった活用をしてPRをすればさらに広く広報できるのではと感じた。

回答：小西部長

- ・物部川エリアも高知市との連携が必要になってくると思うので、是非連携して取り組んでいただきたい。「らんまん」効果もまだあると思うので、セットで出していくことは今後も必要だと考えている。

発言：松島委員

- ・どっぷり関連では、いしはらの里の大人の修学旅行を頑張っており、その他のものも掘り起こしをしているところ。現在工事中の早明浦ダムに立ち入ることができるインフラツーリズムもどっぷりに入れている。また、ワゴンタクシーを使ったツアーでは、大型バスでは行けない渓谷の紅葉などが観られる企画を始めている。
- ・本山のモンベルには、棚田でのおにぎりづくりをモンベルのプログラムとしてできないか交渉をしているところ。
- ・インバウンドという点では、久保委員から話のあった瀬戸内国際芸術祭について、私もこれをターゲットだと思っている。私も開催の年は大抵訪れるが、フェリー会社がキャッシュレスに対応しておらず、外国人が困っている場面を目撃して勿体ないと感じた。高知県でもまだまだ体験でキャッシュレス対応ができていない。海外OTAのAirbnbが体験に力を入れているようなので、体験事業者に登録してもらえれば、そこでの対応ができるのではないかな。

回答：小西会長

- ・棚田でのおにぎりづくりは非常に面白い体験だと思うので、インバウンド向けにも発信していきたい。
- ・キャッシュレス対応はどこの会合でも指摘されるが、事業者にとっては手数料の問題がある。ひろめ市場のホームページでは対応できている店はその表示をしているので、まずは対応している業者をPRしていくことも一つのインセンティブになると思う。そういったことも含めながら取り組んでいきたい。

発言：小笠原委員

- ・中村委員から次の朝の連続テレビ小説の舞台が高知であることを県外ではまだ知られていないという話があったが、県内でもそこまで浸透していないという印象をこの数ヶ月で感じている。キャッチーなあんぱんうちわを作ったり、あんぱん食い競争を県内のイベントで開催するなど広報に取り組んでいる。

発言：佐々木委員

- ・どっぷり関連では、東洋町で一棟貸しで宿泊して現地で神社巡りや体験をするモニターツアーを10月に開催した。今後商品化に向けた造成を行っていく。安芸市では漁協と漁師が中心となって、前日

に漁師と宴会し、翌朝しらす漁に見学に出るといった商品づくりを進めており、2月にモニターツアーを開催する予定である。

- ・協議会としては観光庁事業を活用したゆずツーリズムとして、宿泊プランを4コース、日帰りを2コース設定し、10月27日から随時モニターツアーを実施する予定である。12月中旬頃に終了し、来春の商品発表に向けて取り組んでいく。
- ・「北川モネさん」が先日発表された。モネの庭に聞いたところ、植物の人気はまだ高いということなので、是非広報に取り入れていただければ東部のPRにもなる。
- ・琴ヶ浜が「あんぱん」のロケ地になったので、これまでの朝の連続テレビ小説のロケ地となった伊尾木洞・土居郭中・野良時計を合わせたロケ地巡りを旅行会社に提案している。
- ・デジタルマップを我々の協議会と物部川エリア、土佐くろしお鉄道で制作している。合わせて約500施設を掲載し、1月にスタートをする予定で取り組んでいる。4月頃からはスタンプラリーも開催したいと考えている。
- ・11月1日から藤川球児監督の阪神タイガースが安芸で秋期キャンプを予定。阪神ファンや関西の方が来られると思うので、そこでの情報発信にも取り組んでいきたい。

回答：小西会長

- ・ロケ地巡りの提案は非常に面白いと思う。我々も参考にさせていただきながら、セールスもしていきたい。

発言：古谷委員

- ・どっぷりを体験されるのは割と中高年層が多いと思われ、そういった方々が地域を回って喜ばれているのではないかと。さらに充実したものを造成し、情報発信も行っていただきたい。高知県には津波避難タワーが多くあるので、これを活用するのも一つの手ではないか。
- ・「あんぱん」では、子どもに引き連れられて親や祖父母が来ると思うので、子どもが主体となるイラストコンテストなどを開催し表彰してはどうか。こういったことは子どもの心に残ると思うので、企画を考えるにあたっては、子どもを主体とすることも念頭に置いていただきたい。
- ・レンタカーが不足しているということをよく聞く。県内を周遊するには公共交通機関もあるが、レンタカーも必要になる。もう少し台数が増えれば良いと思うので、何かの折には発信していただきたい。

回答：小西会長

- ・津波避難タワーはクルーズ船で来られた外国人の方からも興味を持たれるという話を聞いており、観光素材に使えるのではないかと考えている。また、先日の9月議会でも防災ツーリズムとバリアフリーと一緒に発信していくことも大事というご意見もいただいたところ。
- ・子ども主体という点も参考になったので、また考えていきたい。
- ・レンタカーについてはレンタカー協会と意見交換をしていきたい。

発言：仙波委員

- ・アンパンマンのコンテンツ使用が難しいことを踏まえて、やなせ作品との絡み方を三点ほど考えてみた。
- ・瀬戸内国際芸術祭の窓口である香川県にある猪熊弦一郎現代美術館とはゆかりがあり、猪熊先生が作られた三越の「華ひらく」という包装紙には、やなせのサインが今も残っている。三越の方でもこういった注目を踏まえて資料を探したり色々な動きに出ている。三越に限らず、やなせが当時一緒に有名な方々と仕事をした資料が残っているという話もある。香川県にはそのようなつながりでのもっていき方があるのではないかと。
- ・「北川モネさん」は、ごめん・なはり線のキャラ制作のときに作っていたラフをやなせスタジオが磨き上げたもの。やなせが亡くなった後もまだ稼働しており、アシスタントとして働いていたメンバー

が今も仕事している。こちらに作画依頼をすることで、やなせ風の作品世界を守りつつ、新たなキャラクターを作っていける可能性があると思っている。

- ・我々の財団の収蔵作品の大きなタブロー画を県外の方がご覧になられた際、太陽や夕日、海といったものに関して高知を感じるとお話をいただくことが多くある。やなせが子どもの頃に見た高知の風景が作品に現れてくるということはあるかと思う。今回の朝ドラ関係の皆様もタブロー画の大きな太陽の描き方などにインスピレーションを受けてロケ地を探されたと聞いている。そういった意味では、香美市は海がないので西部や東部の風景も高知の風景という意味で、やなせの心象風景に影響を与えているといった見せ方もあるのではと思う。

発言：森岡委員

- ・ガイド機能強化のためのスタートアップセミナーを6月30日から7月2日にかけて、中部・西部・東部の3会場で実施し、109名が参加された。観光ガイド体験会は8月から行う予定だったが、台風のため9月からのスタートとなり、あと1会場残っていて40名が参加される予定。その後、11月は実際のガイドの現場をお手伝いするお手伝いガイドを行う予定で少し期待をしている。
- ・他にもガイド団体独自の養成講座を5団体が実施しており、約90名の方が受講されている。11月から12月にかけてあと2団体が予定している。特に「あんぱん」の関係で南国市と香美市で90名のうち約半分の方が参加されている。ガイド団体をまたがった参加者もあり、高知市から先ほどの2団体に13名が参加されている。
- ・ガイド登録者の目標は1,000名だったが、今年度で900名後半ぐらいにはなるのではないかと。お手伝いガイドの方が入ってこられることで数字がまた上がってくることを期待している。

回答：小西会長

- ・どっぷりではガイドの皆様の力添えが非常に重要になってくるので、引き続き取り組んでいただきたい。

発言：渡部委員

- ・ミュージアムネットワークでは、補助金を活用してホテルのフロントの方、タクシーの運転手、道の駅の職員などが自分の生活している中から観光客に物事を伝えられるように簡単な地域ガイドのパンフレットを作っているところ。広域観光協議会の皆様にもご助言をいただき、7つのエリアと4つのテーマを組み合わせ、今年度は歴史・民俗・食、来年度は自然・体験を取り上げていきたいと思っている。
- ・各エリアに一人ずつ学芸員を担当として配置し、文化施設の職員だからこそ気づく話など新しい話題を意識しながら出し合い話を始めたところ。例えば物部川エリアでは、流域全体の視点で捉えると山と川と下流の広い大地、そして海が一つの世界に入っており、そこを見ると人間の生き様が全て分かるというイメージで入っていくと面白い。上流の物部では、古いいざなぎ流という基層信仰があり、太夫さんがまだ高知では機能しているといった話もある。また、谷筋ごとの風景も実は長宗我部時代からあまり変わっておらず、長宗我部氏の山間の支配を考えると時には、今の物部の風景から色々見えることもある。下流のアンパンマンミュージアムがある葦生郷では、大川上美良布神社の信仰圏があり、今度は材木の関係で山田が発達していき、山田堰から用水を引いて、江戸時代の初めに突如として野市という五千石の町が登場する。さらに用水を引いて後免という町を作るというような、一つの川を中心とした物語ができる。それらを簡単に説明できるようにパンフレットを作っているところ。
- ・12月頃に観光の方のご意見を聞く予定で、年が明けてからは、宿泊施設などに説明会を行い現場のご意見を反映し、2月頃に発行することを予定している。その反応を見ながら来年工夫をしていこうと考えている。今まであまり登場しなかった題材や切り込み方で観光に寄与しようと、ミュージアムネットワークで動いている。

回答：小西会長

- ・そのパンフレットで宿泊施設やタクシーの方などが、少しでも観光客におもてなしやお話ができるようになればありがたい。非常に重要な取り組みである。

発言：小野委員

- ・我々は県の移住促進課と連携しながら、高知県に移住してくれる方や好きになってくれる方を増やしている。去年、グッドデザイン賞をいただいた「いきつけいなか」というサービスを行っている。今年10月にコクヨの地方創生優良事例の130ぐらいの20選に選ばれ、先日東京で展示もして、高知のPRができていっているのではと思っている。
- ・私は移住者だが、どっぷりの体験はとても面白そうに感じる。先ほどお話のあった、漁師と宴会して朝漁に出るといふものもとても好きで、私も同じような体験をした結果、移住につながっており、移住と観光にはとてもシナジーがある。
- ・どっぷりは、県内の面白い魅力をつアー化してそれを発信しながら、県民が面白がりながら自分たちもPRしていくといったコンセプトだったと思う。面白い魅力はあるが、どう発信していくかが大事である。全国どこの県も頑張っている面白企画を出しているのだから、高知ならではの情報発信を期待したい。
- ・SNS発信という点では、県民66万人がアンバサダーになると思っている。公式の情報発信は面白くないが、誰かの口コミで面白いと思ったら見に行こうとするので、県内の人に面白いと思って自分のSNSで発信してもらえればそれが県外の方に伝わっていく。
- ・仁淀ブルー観光協議会の体験ツアーでは、日高村の移住者のほとんどが体験を出しているように、移住したきた方で情報発信をしたい方は多い。私でいうと、仕事やプライベートで年間100人ぐらいの方が来られる。県内の移住者一人一人が外とのつながりを持っていると思うので、そういうつながりをうまく使っていくことで県内に機運が醸成され外に漏れていく。外に発信すればするほどPRはうまくいかず、中が面白ければ面白いほどそれが漏れてPRがうまくいくという、コミュニティマーケティングやファンマーケティングがある。それがこのキャンペーンの魅力だと思うので期待したい。

回答：小西会長

- ・コミュニティマーケティングの手法などについて我々も勉強していきたいので、またご示唆をいただきたい。

発言：庵原委員

- ・「らんまん」では、県内全体で盛り上がっているという雰囲気はなかった。ドラマの内容も良く、それで来られた方もたくさんいると思うが、我々の地域に多く来た印象はあまりなかった。「あんぱん」もこのままでは恐らく同じ状況になる予感がしている。
- ・そのためにも、龍馬パスポートのスタンプにやなせ先生のキャラクターを使ってはどうか。エリア毎にキャラクターを配置し、例えば来年一年間は宿泊施設でキャラクタープラス宿泊施設名の特別なスタンプが押されるなど。また、パンフレットなどの広報で各地のキャラクターを紹介し、県全体で盛り上がっている雰囲気を出してはどうか。
- ・先ほどレンタカーが不足しているとお話があったが、鉄道をもっと活用できないかと思っている。高知県は広く全部運転するのは大変なので、車窓を楽しんだ後にレンタカーで旅をするというモデルプランをもっと広報してはどうか。

回答：鍵山委員

- ・龍馬パスポートの関係では来年度、新しい企画をやろうと考えているところ。ご提案いただいたアイデアは非常に面白いと思うので、我々も検討していきたい。

発言：水田委員

- ・県内の貸切バス事業者にとって、「あんぱん」は大きなチャンスとっており、それぞれ県外の大手旅行代理などに営業やPRをしている。どつぷりと「あんぱん」が連携して県外に情報発信されることで全国の中から高知県を選ぶ方向に少しでもなればありがたいので、県外へのPRの強化を是非お願いしたい。
- ・先日の物部川エリアでの観光博覧会の実行委員会で、龍馬伝の様に高速バスや貸切バスのラッピングも県外へのPRにおいて有効なのではないかという意見もあったので、ご検討いただきたい。
- ・高知県に来られる方はマイカー利用者が多く、これまでも駐車場や渋滞の問題があった。対策としてシャトルバスを使われることも貸切バスの活用につながるので、必要であれば声をかえていただきたい。

回答：小西会長

- ・今後、シャトルバスを使う場面も出てくると思われるので、またご相談させていただきたい。

発言：野戸委員

- ・今日は地域の生の情報をたくさん聞くことができた。どれもメディアが取材に来たがるような情報だった。今後、メディア戦略を整理しながら東京に持ち帰ってアプローチもしていきたい。

発言：小松副会長

- ・四万十市観光協会では、川漁師体験をしてもらうことでもう1泊してもらったり、メガSUPに座ってコーヒーを淹れる、中村の歴史の風景を案内人付きで回るなどの商品を作ってコンテンツに採用されている。
- ・現在、阪急交通社の5泊6日プランのオプションの2日目と5日目でそれぞれ利用されているが、現地でちゃんと案内ができて、その手配をしてあげる仕組みが絶対必要だと思っている。四万十市観光協会では当日、オプションの説明をしたあとに申し込みを受けて利用していただくようにしている。手間と時間がすごくかかるが、その体制を広域や市町村の観光協会がもたないと深掘り型の着地型のコンテンツの最終的な販売にはなかなか結びつかないのではないかと。ハードルは非常に高いが、是非取り組んでいただきたい。
- ・周遊促進・滞在延長支援事業費補助金では、四万十川バスを利用した周遊促進事業を行っている。来年は、しまんと・あしずり号とそれぞれのエリアを結ぶサイクリングロードを連動させた周遊に取り組みたいと考えている。このように色々な連動をさせていくような方向性で皆様の方でも展開いただきたい。
- ・先ほどの渡部委員の物部川流域の歴史の話はすごく面白かった。そういった歴史から見た風景の成り立ちなどそれぞれのエリアで作っていただけたら一つの大きなコンテンツになると思っている。中村は一条家だけの歴史になりがちだったものを歴史の愛好会に縄文時代から近世までの通史をまとめた歴史ガイドブックを作ってもらった。この歴史の視点から見ると本当に面白いことがたくさんあって、そういったこともどつぷりの要素になるのではないかと。それぞれのエリアにもきっと素晴らしい歴史があると思うので、そういった観点でも取り組んでいただければと思う。
- ・どつぷりの商品が売れたという話がいくつかあったが、その集計ができないだろうか。他の動向が分かれば自分たちも頑張ろうという気になるのではないかと。

回答：小西会長

- ・商品の出来具合やそれがどう売れているかという点で、押さえられる部分は情報共有をさせていただきたい。

4 閉会